

森林科学科のキノコ栽培

11月～12月にかけては、森林科学科で栽培しているシイタケ、ヒラタケ、ナメコが収穫を迎えます。どのキノコも川合農場のクヌギを使って栽培していますが、今回はその工程をシイタケ編とヒラタケ・ナメコ編に分けて紹介します。



11月～12月 3年生クヌギ伐採

チルホールを用品ます

1月～2月 1年生で90cmに玉切り



2月～3月 1・2年生で菌打ち

3月～9月 演習林で仮伏せ
10月 本校シイタケハウスで本伏せ



11月～4月 発生・収穫
1・2年生時間外実習

シイタケの栽培は、原木であるクヌギ伐採から玉切り、菌打ち、仮伏せ、本伏せ、発生・収穫まで約1年がかりとなります。原木の栽培・管理からキノコ栽培の工程に全学年が関わり、自分たちの手で育てたシイタケということが、本校森林科学科のシイタケ最大の特徴と言えます。

ヒラタケ・ナメコ編



クヌギ原木の玉切り



大径木を用い、15cmに切る



伐った時に出た大鋸屑と種菌、米ぬかを4:1:1で混ぜたものを木口に厚さ2cm程度に平塗りし、ラップで覆う



スギの葉と寒冷紗で覆って仮伏せ（4月～6月まで）



右のように十分菌が回ってから、地中に半分以上埋めて本伏せ（7月）



ヒラタケ・ナメコは直径18cm以上の大系木を短く切るため、短木栽培という方法を用います。どちらも菌打ちは4月で、ヒラタケは10月～1月、ナメコは11月～2月に発生し、収穫します。